

〔大学の所定の科目を履修することで認定される資格〕

◎公益社団法人日本心理学会認定心理士（通称，認定心理士）及び認定心理士（心理調査）

1. 「認定心理士」について

1) 資格の概要

認定心理士とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得していると公益社団法人日本心理学会が認定した人のことである。心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性の向上に資するために設けられている。

認定心理士を取得するためには、以下の「履修のガイドライン」に従って、所定の心理学関連科目を36単位以上履修し、かつ、以下の各項目を満たさなくてはならない。

(1) 16才以降少なくとも2年以上日本国に滞在した経験を有する者。

(2) 学校教育法により定められた大学、または大学院における心理学専攻、教育心理学専攻、または心理学関連専攻の学科において、別表に掲げる科目を履修し、必要単位を修得し、卒業または修了した者、および、それと同等以上の学力を有すると認められた者。

なお、認定の詳細は社団法人日本心理学会の関連細則の定めるところによる。

右記のHPで各自確認のこと。 <http://www.psych.or.jp>

2) 履修のガイドライン

以下の表にある科目から、**注(*)に従って36単位以上取得すること。**

「認定心理士」を希望する編入生については、以前の所属大学等で取得した科目を本学の「認定心理士」関連科目に読み替えないこととしており、「認定心理士」取得に必要な科目を本学で新たに履修すること。

2. 「認定心理士（心理調査）」について

1) 資格の概要

「認定心理士」の上位資格に位置づけられ、認定心理士と同時に取得することが可能である。心理学の基本的知識及び技術をもとに実験・調査・観察等の研究ができることを公益社団法人日本心理学会が認める資格であり、認定心理士資格申請にかかわる科目に加え、認定心理士（心理調査）資格申請のための必修科目を修得することで資格が得られる。

2) 履修のガイドライン

『認定心理士（心理調査）』では、「認定心理士」の所定カリキュラムの必要単位取得に加えて、実験・調査・観察等の手法を用いた研究（2課題；卒業論文を含む）を主体的に行い、その一連のプロセスを日本心理学会指定のレポート様式において成果報告し、資格申請および審査を受けるものである。

以下の表にある科目から、**注(*)に従って履修すること。**

2022 年度生用

【認定心理士】

法人の定める 科目領域		本学開講科目	単位数	履修要件		取得年次	担当教員	
基礎科目	a	心理学概論 I	2	4 単位 選択 必修	左の単位を含み、 12 単位以上選択必修 (選択科目は、 d から h の 5 領域のうち 3 領域以上でそれぞれが少なくとも 4 単位以上) 左の単位を含み、 16 単位以上選択必修 左の単位を含み、 36 単位以上選択必修	1~	遠藤	
		心理学概論 II *1	2			1~	佐藤(俊)	
		心理学	2			1~	佐藤(俊)・渡邊	
	b	心理学研究法	2	4 単位 選択 必修		2~	佐藤(俊)	
		心理学統計法 I	2			1~	担当教員	
		心理学統計法 II *1*2	2			1~	担当教員	
	c	心理学 実験・実習	心理学実験 I *3*4	2		必修	2~	担当教員
			心理学実験 II *1*3	2			2~	担当教員
		心理演習 I	1(2)*5	3~			佐藤(修)	
		心理演習 II	1(2)*5	3~			亀倉	
			心理実習	2(4)*5			4	担当教員
	選択科目	d	知覚心理学 (知覚・認知心理学)	2		(選択科目は、 d から h の 5 領域のうち 3 領域以上でそれぞれが少なくとも 4 単位以上) 左の単位を含み、 16 単位以上選択必修 左の単位を含み、 36 単位以上選択必修	2~	伊藤
			認知心理学 (知覚・認知心理学)	2			2~	伊藤
学習心理学 (学習・言語心理学)			2	2~	佐藤(俊)			
言語心理学 (学習・言語心理学)			2	2~	渡邊			
感情心理学 (感情・人格心理学)			2	3~	佐藤(俊)			
e		生理心理学 ・比較心理学	神経心理学 (神経・生理心理学)	2	2~		平林	
			生理心理学 (神経・生理心理学)	2	3~		佐藤(俊)	
f		教育・発達 心理学	教育心理学 (教育・学校心理学)	2	1~		高木	
			発達心理学 I	2	1~		渡邊	
			発達心理学 II	2	1~		遠藤	
			学校心理学 (教育・学校心理学)	2	2~		佐藤(修)	
g		臨床・人格 心理学	臨床心理学概論 I	2	2~		小林(万)	
			臨床心理学概論 II	2	2~		小林(万)	
	心理学的支援法		2	3~	小林(万)			
	人格心理学 (感情・人格心理学)		2	3~	小林(万)			
	健康心理学 (健康・医療心理学)		2	3~	佐藤(俊)			
	医療心理学 (健康・医療心理学)		2	3~	担当教員			
	福祉心理学		2	3~	山本			
	障害者・障害児心理学		2	3~	山本			
	司法・犯罪心理学		2	3~	小林(万)			
	心理的アセスメント		2	2~	小林(万)			
	発達診断の理論と方法		2	2~	高木			
h	社会・産業 心理学	家族心理学 (社会・集団・家族心理学)	2	1~	渡邊			
		精神疾患とその治療 I・II *1	2(4)*5	2~	小泉			
		現代の精神保健の課題と支援 I・II *1	2(4)*5	2~	三井			
i.その他		社会・集団心理学 (社会・集団・家族心理学)	2	1~	遠藤			
		人間関係論	2	1~	市東			
		産業・組織心理学	2	3~	担当教員			
i.その他		卒業研究と論文	4(8)*6		4	遠藤・佐藤(俊)・ 佐藤(修)・小林		
		専門ゼミナール	4*7		3~	遠藤・佐藤(俊)・ 佐藤(修)・小林		
		心理学と心理的支援	2		1~	遠藤		

資格の取得

【認定心理士（心理調査）】

法人の定める 科目領域		本学開講科目	単位数	履修要件	取得年次	担当教員
心理 調査	心理調査概論	心理調査概論	2	2 単位 必修	2～	伊藤
	心理統計	心理学統計法Ⅱ ^{*1*2}	2	2 単位 必修	1～	担当教員
	発展／応用研 究（実習）	応用心理調査実習 ^{*8}	4	6 単位 必修	3～	遠藤・佐藤(俊)・ 佐藤(修)
		卒業研究と論文	4(8) ^{*6}		4	遠藤・佐藤(俊)・ 佐藤(修)・小林

- (注) *1 「Ⅱ」を標記している科目は、必ず「Ⅰ」を標記している科目を履修した後に受講すること。
- *2 シラバスの都合上「心理学統計法Ⅱ」を必ず履修すること。
- *3 「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」及び「応用心理調査実習」は本学カリキュラム系列において、専門科目表の「演習・実習科目」系列であり、時間数は「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のⅠ・Ⅱそれぞれ2コマ連続開講(30コマ)2単位である。
- *4 「心理学実験Ⅰ」は受講定員(30名以内)があり、応募者数が定員を超えた場合には選考を行う。
- *5 この科目は、大学認定単位の半分が認定心理士のための単位となる。例えば「児童精神医学」は大学認定では2単位だが、日本心理学会では1単位までを認める。
- *6 卒業論文は、大学認定では8単位だが、心理学に関わる研究テーマとすることで、日本心理学会では4単位までを認める。
- *7 「専門ゼミナール」は3年次から、心理教員(4名)の専門ゼミナールの中から、学生にとって興味・関心の高いものを一つ選択し、4年次まで一貫して継続的に履修することが原則である。1つのゼミナールに希望者が集中した場合は選考を行う。また認定心理士の申請においては、単年度分(4単位)のみ申請可能である。
- *8 3名の教員が担当し(3クラス編成)、3クラス全体で定員15名以内(各クラス5名以内)とする。そして履修希望レポート課題及び成績評価により選考・クラス編成を行う。履修希望者は、公認心理師・認定心理士(福祉心理コース)ガイダンスに出席するとともに、履修希望レポート課題をポータルサイトで確認し、指定された期日までに教育支援担当に提出すること。